

| 執筆担当            | 所在地        | 畜種 | キーワード              |
|-----------------|------------|----|--------------------|
| 本所 改良部<br>生産衛生課 | 福島県<br>西郷村 | 共通 | 野生動物対策、自動撮影<br>カメラ |

## 野生動物の侵入防止対策にかかる自動撮影カメラの活用

### 1. はじめに

野生動物の侵入防止対策は、家畜伝染性疾病を農場に持ち込まない為に大変重要です。(独)家畜改良センター 改良部 生産衛生課では、その対策の一つとして自動撮影カメラ(※)による野生動物の動態確認を行い、侵入経路の特定や防獣柵の効果の検証に活用しています。カメラの設置開始から運用が軌道に乗るまでに得られた知見がありましたので、家畜を飼養する皆様に紹介いたします。



※ここでは、受動赤外線センサーを搭載し、温度の変化を感知して自動で撮影するカメラを使用しています。最近ではトレイルカメラと呼ばれることが多いようです。

SecuSTATION トレイルカメラ SC-MW65

(別途マイクロ SD カードの準備が必要。)

### 2. カメラの設置

畜舎周辺(衛生管理区域外)の、野生動物による掘り起こし跡や糞が確認された場所が写るよう位置を決め、製品ライトの照射距離がおよそ 20 メートルということも勘案して、既存の柱などに付属のベルト等でカメラを固定しました。



野生動物による掘り起こし跡



カメラ

設置時には、テストモードで感知の程度をその場で確認することも行いましたが、始めは数日おきの短いスパンで撮影された映像を確認し、設置場所やカメラの高さの微調整を行いました。カメラの高さは、高すぎるよりも野生動物（シカやイノシシを想定）の高さに合わせた（地面から 100 センチメートル程度）方が良く撮影できるようになりました。また、風による枝の動き等でもカメラが感知してしまう事があるので、周辺の木がセンサーの範囲内に入らないよう設置する必要があります。

なお、センターでは衛生管理区域内はもちろんのこと、その周辺環境についても除草や茂みを無くすといった環境整備に取り組んでいます。身近な取組ですが野生動物が潜む場所を減らすことに繋がります。今回のカメラの設置においても、日頃より環境整備を行っていたことにより、設置場所の設定等を容易に行うことが出来ました。

### 3. カメラの運用

初期費用を抑える為、始めは電源として乾電池のみの使用としていましたが、カメラの稼働状況によっては電池の消耗が激しい場合があります。そのため、別売のソーラーパネル（SecuSTATION SC-SPC05）を、陽が良く当たる場所に設置したカメラで使用したところ、日中の電池の消耗を抑えることが出来ました（夜間や日陰では電池が消耗されます）。

撮影された画像は、カメラから SD カードを取り出し、パソコン上で確認する必要があります。SD カードの容量やカメラの稼働状況にもよりますが、7 日以上放置すると画像データが数百枚以上におよび、確認する負担が大きくなることから、おおよそ 1 週間に 1 度は画像データを回収して確認をしています。

#### カメラで確認された野生動物の例



キツネ



シカ



キジ



ネコ

#### 4. 今後の活用について

カメラの画像から、出没する野生動物の傾向や、衛生管理区域を取り囲む防獣柵が機能していることを確認することが出来ました。今後は野生動物が忌避する方策を試し、衛生管理区域周辺に近寄らせない事を目指していきたいと考えています。

#### 5. その他

野生動物向けのカメラの設置ではありませんが、画像により、部外者の畜舎周辺（衛生管理区域外）への立入が確認されたことがありました。景色を見に来ていた様子でしたが、防疫・防犯の観点から早急にチェーンによる通路の封鎖と侵入防止の看板を設置しました。カメラを活用した野生動物対策は、周辺の防犯対策も兼ねることが出来るかも知れません。



(以上)